



村上家資料館(島根県隠岐郡海士町)

地域ミュージアム

Fountains of Wisdom

全国地域ミュージアム活性化協議会機関紙 vol.1

INDEX

発刊にあたって

『地域開発』の時代から『地域開花』の時代へ

地域づくり - 躍動する海士町

会員紹介 - 今井美術館

地域ミュージアム - 驚きの動態展示「口和郷土資料館」

ミュージアム紀行 - アイアンブリッジに思いを馳せて

発刊にあたって

全国地域ミュージアム活性化協議会は、平成23年9月に設立しました。これは、「平成の大合併」後、地域独自の歴史や文化に着目し、地域のアイデンティティ確立、次世代への伝承や学習、また地域振興の拠点としての「地域ミュージアム」のあり方に危機感を抱いたことをきっかけに、地域と地域ミュージアムの新しい展望を開くことを目的としたものです。

平成20年度～23年度、サントリー文化財団の支援による研究活動を経、協議会設立後は、文化庁の支援を得て、地域ミュージアムの活動の可能性調査や、地域ミュージアムの新しい役割に関する調査・研究を行ってきました。

また、平成26年にはICOM(国際博物館会議)のICR(地方博物館国際委員会)において、当協議会の活動報告及び日本固有の鉄づくりの歴史と文化を基盤にした「鉄の歴史村づくり」についての報告を行ったところ、予想以上に大きな反響を呼び、各国の参加者から高い関心を寄せていただきました。国を超えて、地域ミュージアムからの地域づくりが求められていることを再認識したところです。

全国地域ミュージアム活性化協議会設立後、文化庁の支援を得た事業や組織の整備を行い、平成26年度から会員募集に取り組んできました。しかし、事務局のマンパワーの不足と知名度の低さから、会員獲得は難航してきました。そして平成26年度、平成27年度の前期にかけて、団体会員20件、個人会員50名にご加入いただき、ようやく機関紙を発行し、皆様にお届けすることとなりました。

この間の不備を深くお詫び申し上げます。

今後は、年3回の機関紙の発行とともに、当協議会の事業を企画して参ります。

事務局長理事 藤原 洋

会員紹介

今井美術館

島根県津江市桜江町。人口3000人に満たない小さな山あいの町に、毎年「日本美術院展覧会(院展)」が巡回する。

「院展」は日本画の公募展覧会で、明治31年に岡倉天心らが設立した美術院をはじめ、まるとする公益財団法人日本美術院が開催するもの。平成27年の公募で第100回を迎え、東京展(東京都美術館)を皮切りに、全国十数カ所を巡回する。その一つが、津市桜江町にある今井美術館だ。

今井美術館は平成7年に開館。今井久祥氏が収集した日本画、洋画、陶器などのコレクションをもとにスタートした。日本画では、新進気鋭の現代日本画家の作品を精力的に収集している。中でも宮廻正明氏に依頼した作品『水火花』は、美術館の前を流れる八戸川での鮎漁に取材したもので、海外での展覧会にも数多く出品されている。

そして、平成15年から7年にわたり「再興院展の企画展」を連続開催し、その実績が認められて平成19年より「再興院展」の巡回展に参入し、現在に至る。

残念ながら今井久祥氏は今井美術館の開館を見ずに他界したが、その意志を継いだのが久祥氏の妻・順子氏であった。初代館長として、持ち前の明るさと情熱で誕生したばかりの今井美術館を育てた。「館長デスクに座つていい」と言われても、カラフルな割烹着姿で来館者のために世話を焼く。地元出身の童画家・佐々木恵未氏とは互いに信頼を深め、佐々木氏は次々と作品を生み出していった。

展示室





今井美術館外観



上) 院展開催中のお茶席 下) 月森副館長と学芸員補の白川さん

今井美術館

〒699-4226 島根県江津市桜江町川戸472-1

電話 0855-92-1839

休館日／第1・3土日曜日(特別展開催中は無休)

開館時間／10:00～16:00

今井美術館では、地域の子どもたちが芸術文化に触れる機会を積極的に提供している。地元の小学校、中学校、高等学校に働きかけ、子どもたちを招いている。実際に来館した子どもたちや、作家のレクチャーを聞いてくれた学生さんは、自然と興味を抱いて再度来館してくれます。もともともと地域の学校に利用してほしい」と、副館長・月森まりえさん。月森さんは、美術館開館当初から今井順子館長と共に美術館を切り盛りしてきた。「最初は、受付にいただけでいい、と言われたんです」とも。しかし、子育てをしながら独学で学芸員資格を取得。美術館では力仕事も多いが、女性スタッフ2人で回していく。美術館が開館して20年、地方であっても優れた芸術を発信し続けたいと奮闘している。

院展は、全国の十数カ所を巡回するが、ほとんどが都市部の美術館や百貨店だ。今井美術館のような山間部の美術館は珍しい。通常であれば集客も容易ではないが、巡回展開催中は連日にわたって地元の新聞紙面に作品紹介や院展の紹介が掲載される。また、地元の婦人会などが美術館の中庭や駐車場でお茶席を設けたり、飲食の露店を出す。

作家との信頼関係を築き、子どもたちを迎え入れ、地域住民と協力し、行政や企業と連携していく絶え間ない努力が、地方の民間美術館で続けられている。

地域ミュージアム

驚きの動態展示「口和郷土資料館」

山下武之(会員)

想定外のミュージアム。これが、「口和郷土資料館」の印象です。

「郷土資料館」という名前のミュージアムはその地域の民具や、農機具、生活雑器、歳時記、祭り等々地域の生きざまを展示しているミュージアムです。口和も例に違いません。でも、口和はそれだけではありませんでした。

荒つぽく言えば「口和郷土資料館+安部日本文化館」とでもいうのでしょうか。館長は、安部博良さん、奥さんと二人で館を守っておられます。そう、運営するとかいうのではなく、守っているって感覚です。

まずは、パンフレットでご案内しましょう。

「音のふるさと 心のふるさと口和郷土資料館。」

「古きものには 命があります。そつと息を吹き込むと、懐かしの空間がそこに広がります。」「情報機器の原点である蓄音機や電話機を始め、開発期から多様な音声・映像機器、35ミリ映写機など多数を『動態展示』しています。古きものから新しい発見と出会いがあります」。そうでした。新しい発見がありました。

安部さんが一番言いたいことは、「動態展示」でしょう。「音とか、映像は、保存していても意味がない。たとえ擦り減つていっても、人が聞かないと、見ないと展示している意味がない」。

安部さんは、SONYの技術で人生の大半を過ごしてこられた。そして、安部さんのふるさと口和で第2の人生を。不思議だったのが、これだけ多くのモノが、どうして安部さんのところに集まつてくるのか、でした。全部、寄贈いただいたモノです。よと、笑顔で答える安部さん。ますます不可思議。

涙が出るほどの感動が二度ありました。一度は、ジュークボックスで「山下さん、好きな曲を選んでください」。そこに並ぶ曲は、懐かしい歌ばかり。坂本九の「上を向いて歩こう」を選びました。昭和59年、島根国体の後のねりんピックでゲストに招いた九

ちゃんが歌った。不幸にも日航ジャンボ機墜落事故で命を亡くした九さん。そんなことを回想すると、涙がこみあげてきました。

もうひとつ。オーディオ室にある蓄音機。78回転レコード。ここでも、「山下さん、好きなレコードを選んでください」。選びましたよ。14歳の江利チエミが歌う「テネシーワルツ」(1952年)。いや、泣けてきました。涙を見せまいと苦労しました。

ミュージアムってなんなんだろうと、素朴に思いました。答えはすぐに出ないけど、ここに原点がある気がしました。

口和を真似るということではありません。ここにミュージアムの基本があるということ。とです。

ここにある多くのモノは、安部さんがいなかったら、単なるガラタです(安部さん、ゴメンナサイ)。午後5時過ぎ、暗くなるころまで、安部さんのお話に聞き入りました。ミュージアムの考え方、あり方等々。話は尽きませんでした。

全国地域ミュージアム活性化協議会では、このような人が居てこそ価値を發揮するミュージアムを紹介し、このような施設が今後継続するための仕組みづくりを共に進めていきたいと考えています。



安部博良館長

庄原市口和郷土資料館

高校の分校だった旧校舎を利用。劇場用映写機をはじめ大正時代から昭和時代の蓄音機など約300点、レコード20,000枚、江戸時代からの農具・民具約2,500点などを収蔵・展示。安部館長の手により修復されたこれらの資料は、来館者が触れ、動かし、見て、聴くことができる。

〒727-0114 広島県庄原市口和町永田9番地
電話 0824-87-2230
開館日/月・木・土曜日
開館時間/9:00~17:00(入館料:無料)

ミュージアム紀行

アイアンブリッジに 想いを馳せて

岩本功志(会員)

1987年夏、5年間のロンドン駐在を終えて帰国した。新日鉄本社での新任務は新規事業企画だった。新任の挨拶まわりをしていると、先輩からアイアンブリッジのことを知っていたかと問われ、3度ほど行ったことがあると言ったところ、実は吉田村からアイアンブリッジと釜石を入れた鉄のふる里ネットワークを作りたいという話があるので、やってくれないかと頼まれたのがきっかけで、吉田村・釜石・アイアンブリッジ「鉄のふる里」ネットワーク作りに微力ながら協力することになった。

アイアンブリッジはロンドンの北西190kmにあり、イギリスの産業革命の中心地の一つとして有名で、1986年にユネスコ世界遺産に登録されている。セヴァーン渓谷に架かる世界最古の鉄製の橋アイアンブリッジのアーチ型の優美な姿は格別である。1709年に近くのコールブルックステールでアブラハム・ダービー1世がコークスを使った製鉄法を始め、近代製鉄の発祥の地として有名で、アイアンブリッジはこの製鉄所の鉄を使って1779年にアブラハム・ダービー3世によって建設された。当時この地方は鉄鉱石、石炭、石灰石、クレー等の鉱物資源に恵まれており、製鉄のほかコールボートの陶磁器やタバコパイプなどの工場があった。

現在アイアンブリッジ、コールブルックステールなどに点在する産業遺跡、博物館、研究所等をまとめてアイアンブリッジ渓谷博物館として公開している。コールブルックステール

ルにはバーミンガム大学とアンブリッジ渓谷博物館トラストの提携によって設けられたアイアンブリッジ・インスティテュートがあり、産業遺跡の保存や文化遺産に関する大学院教育や職能研修を行っており、イギリスのみならず世界各地の産業遺跡・文化遺産の保存に貢献している。

アイアンブリッジ渓谷博物館でぜひ訪問してほしいのはプリズヒル・ヴィクトリアアンタウンだ。近隣に残っていた当時の建物を移築してヴィクトリア時代の街が再現されており、銀行、郵便局、薬局、商店、鍛冶屋、キャンドルショップ、馬具屋、印刷所等々があり、ヴィクトリア時代の通貨に両替して買い物ができる。一見明治村のようではあるが、銀行員もお巡りさんも店員もヴィクトリア時代のコスチュームで働いており、あたかもヴィクトリア時代にタイムスリップしたような気分になる。

1992年にアイアンブリッジを再訪問した時、アイアンブリッジ渓谷博物館の初代館長のニール・コスンス博士にお会いした。博士はアイアンブリッジをこよなく愛しておられ、当時ロンドンの国立科学博物館の館長をされていたが、週末はアイアンブリッジの自宅に帰られていた。月曜日の朝、ロンドンに出動される2時間ほどの汽車の旅をご一緒した。話はずみ、博士のアイアンブリッジへの強い愛情が印象的だった。1994年には博士の長年にわたる文化遺産保護活動やアイアンブリッジ渓谷博物館、国立海事博物館、国立科学博物館等の館長としての貢献が評価され、エリザベス女王からナイトの称号を授かり、サー・ニールとなられた。

アイアンブリッジは通常の観光ルートから外れているので、訪問された人は少ないと思われるが、あの有名な産業革命の舞台がこんな鄙びた村であったことに驚くとともに、産業遺跡が往時の形を大切に保存され公開されていることに感銘を受ける。小生にとってはぜひまた訪問したい懐かしい思い出の地である。



これまでの活動報告

- 平成23年度 -

- 観光事業への取り組み調査
- ミュージアムを活かした観光振興研究会(鳥根県出雲市大社町)
- 「北前船」と関連する地域博物館同士の連携による広域観光ルート開発のための調査及び構想
- 地域におけるインバウンド拡大のための検討
- 地域づくりのための図書館・ミュージアムをつなぐシンポジウム(長野県小布施町)
- 伝統技術を現代における産業に活かした事例調査
- ミュージアムを活かした地域づくり研究会の開催(鳥根県雲南市吉田町)
- 地域映像記録アーカイブスのための調査及び検討

- 平成24年度 -

- ミュージアム連携に関する協議及び調査
- 地域ミュージアムと広域観光研究会(広島市)
- フィールド・ミュージアムからの観光振興研修会(鳥根県松江市美保関町)
- ミュージアムを中心とした「知的観光地」形成事業
- 展示テーマを活かした博物館連携による広域観光商品の開発
- 鳥根・地域文化再生塾の開催(東京都中央区)
- 地域ミュージアムとまちづくりフォーラムの開催(東京都千代田区)
- ミュージアムからの地域文化情報発信研究会(大阪府吹田市)

- 平成25年度 -

- ミュージアムのプロデュースに関する事業研究
- ミュージアム・トリップサービス開発研究
- ミュージアムからの地域づくり調査研究
- 地域映像記録・保存活動

- 平成26年度 -

- ミュージアム・トラベル現地可能性調査
- 先進事例調査及び調査からの検討
- ICOM・ICRへの参加と地域ミュージアムからの地域振興について報告(台湾)
- 会員募集活動